

第6回 益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会

日時：令和元年（2019年）7月24日（水）10：00～12：15

場所：益城町役場仮設庁舎 会議棟2階大会議室

出席：柿本委員長、星野委員、竹内委員、田中委員、宮崎委員、中川 公則委員、坂井委員、菅委員、西坂委員、岩下委員、中川 博文委員、松野委員、吉村委員

内容：

1. 開会

• 委員長

- 令和になってはじめての会議。年号が変わると、「時代が変わってしまった」という印象がある。
- しかし地震の記憶は継承していく必要がある。
- 我々は忘れるから幸せな部分もあるけれど、後世にきちんと伝える必要がある。
- 欲を言えば、地域づくり・地域活性化につなげることが望ましい。そういう動きをしていかないと、人口はどんどん減ってしまう。
- そのような問題意識を持って、この委員会が設立された。
- 年度が替わって、今回から参加される方もいらっしゃる。これまでの取組、今年度の取組を事務局から先に説明いただいたあとに、討議していきたい。

2. 委嘱状交付

- 事務局より、各委員に委嘱状を交付

3. これまでの記憶の継承の活動

- 事務局より、事業の概要や委員会の役割、これまでの活動について資料4～6を用いて説明

4. 第5回検討・推進委員会の議事概要

- 事務局より、前回の委員会の概要について資料7を用いて説明

5. 各専門部会における今年度の活動報告

- 事務局より、今年度の活動計画について資料8～10を用いて説明

6. 中心拠点の機能について

- 事務局より、中心拠点の機能について資料11を用いて説明

7. 委員討議（○：委員 ◆：事務局）

- 福田校区の3断層の位置を知りたい。
- 消防小屋の断層がそのままになっている。「屋内で風化しないので、何とか保存できないか」という議

論が進んでいた。誰が管理していくのか、という話まであったが、そのままとなっている。現在の位置の西側に同じ規模のものを建設するという話があり、その場合は元のもの解体する可能性がある。

- 防災倉庫の設置について、木山地区、福田地区全区長に鍵を 3 本ずつ渡してある。しかし共通の鍵となっているので、紛失といった問題が出てくる可能性がある。対策について検討しているのであれば、教えて欲しい。
- ◆ 福田校区の 3 断層は谷川地区を指している。布田川断層の総称である。
- ◆ 消防小屋について、震災遺構のリストには掲載をしている。危機管理課と協議しながら進めていきたい。滅失する場合はアーカイブとして記録・保存したい。また詳細に計測して、図面を保存したい。
- ◆ 消防小屋については、よろず相談会でお話をいただいた。予算措置などの問題があるが、まずは地元のみなさんがたくさん知っていただく、ということが大事。継続的に検討して行きたい。
- 消防小屋はフットパスの際に必ず通るようになっている。
- ◆ 防災倉庫について。ネームプレート型のものに鍵をつけることで、紛失対策をとっている。また鍵を渡す際は受領書をご提出いただいている。管理者が変わる場合は、変更届もご提出いただく。これらの届出を制度化することで、管理する方の意識を高めていく。ほかにもいい方法があれば、検討・採用していきたい。
- 鍵の紛失ではなく、倉庫の中に高価なものがたくさん入っている。それらの物資の紛失・盗難等を不安に思っている。
- ◆ 共通鍵にするのか個別鍵にするのかについては議論があったが、個別鍵にすると鍵管理者が不在の際に災害が起こると対応できないので、共通鍵とすることにした。結束バンドで留めておいて、いざというときはハサミで切る、という案もあった。
- 何かあったときには倉庫からいろいろ出すことになる。あとから「あれがない・これがない」ということになりかねない。管理の問題が出てくるのではないかと危惧している。
- ◆ 先日の説明会でも伝えたが、訓練で使ってもらっても構わない。しかし故障した場合は必ず連絡して欲しい。災害のときに使えないのが 1 番困る。
- ◆ 倉庫にある備品を平時から使っていくことが重要。「あったものがなくなった」とか「これでは足りない」ということに気付くことが重要。自分たちで管理することが重要。盗難の不安も分らなくはないけれど、定期的に使う、ということが「鍵が手元にある」ことのメリット。
- チェーンソーがなくなるのではという不安がある。製造番号を控えておく、といった対策があり得るのでは。
- 震災公園の名称について。「広場」という名前にすれば、みんなが集まりやすくなるのでは。それぞれ「○○広場」と名づければ、誰もが遊べる場所になる。また、それぞれの広場に防災機能をつけて欲しい。せめてトイレがあるように。
- ◆ 名称について、「広場」の方が確かにイメージが付きやすい。今後検討したい。各校区の拠点について、これまで議論したものを整理したものが資料 11-1。すべての広場に防災機能が備わっているわけではない。第五保育所跡地は避難地として整備されるので、公園・広場と防災機能がセットになった場づくりになる。飯野小学校についてもそれに類するものができるかと思う。広安については具体的な場

所をどうするのか、小学校にするのか、木山往還という歴史ある道そのものにした方がいいのではないかと…といった議論をしているところ。防災機能を付与できるかは分からない。各校区によって変わってくるかと思う。

- 地震のときは怖いので、公園にトイレがあったほうがいい。
- 語り部について。まちづくり支援施設に事務所を作るとのこと。我々は現在、語り部活動を行っている。いろいろな方たちが語り部として活動しているので、その人たちのネットワークを作っていくことが大事。たとえば視察者が自治会長の場合は、益城の区長につないで、話をしてもらっている。我々は現在 10 名程度が動いている。そのあたりのネットワークを 1 つのものにしていきたいので、ご協力のほどよろしくお願いしたい。
- ◆ 組織づくりの議論につながるので、今後検討して行きたい。
- 震災から 3 年が経った。具体的に、目に見える形の成果が欲しい。町民にも理解が得られやすい。
- 中心拠点について。役場に全部集中させると、いろいろな意味で不都合が生じるのでは。文化会館の活用も含めて検討すべき。大型バスが役場に何台も乗りつけるようなことになると、住民サービスに支障が出るのでは。議会でも検討していくことになる。役場ありきで検討しないでいただきたい。
- 防災倉庫について。管理を間違えると、いろいろ難しいことになる。チェーンソーや発電機など高価なものがあり、紛失した場合誰が責任を取るのか、ということになる。きちんとした管理、点検体制、責任体制を検討いただきたい。本来は防災倉庫を整備する前に検討が必要。
- ◆ 布田川断層について、スピード感を持って取り組んでいる。保存整備の方針を検討していく。それまでの期間は仮保存。震災遺構に来て、何かしらの情報を得て・学んで帰ることができるようにしている。
- ◆ 防災倉庫について、管理方法を検討する。
- 雨が降ってこのような状況（資料 9-2-1）になる、というのは管理できていない、ということ。
- ◆ 後ろに側溝があり、上からの土砂が溜まっている。同様の事態が起きないよう、対策は打った。
- 地震後、何度も見に行った。ビニールをかけて、排水溝をつくっておくことが必要。
- ◆ 天然記念物なので、原状を維持することが必要となる。
- 校区別拠点について、広安西校区と広安校区が一緒になっている。人口が多すぎるので、2 つに分けたほうがいいのでは。
- 震災ミュージアムについて。四賢婦人記念館を小学生の学習の場とするのは難しい（子どもたちが学ぶ環境になっていない）。震災に対する記憶をどのように展示していくのかについて、教育委員会の中で小学校等とともに検討し、展示資料や学習の場の整理を進めて欲しい。
- ◆ 四賢婦人記念館について。漫画を教材としてご活用いただきたい。展示については大人向けになっているが、子供向けの展示・マニュアルを整理していきたい。8 月より、四賢婦人の漫画を町単費で 3,000 部整備し、全国の書店におかれる。全国の子供に広めたい。
- ◆ 広安校区について、人口が多く、小学校が 2 つある。改めて検討する。

- 記憶の継承の議論について、仮設住宅・みんなの家が住民の語りの場となっている。災害公営住宅の整備が進んでいる。みんなの家は将来的に解体しなければいけないが、災害公営住宅の近くの敷地に移設して、記憶の継承という形で活用するという議論はなかったか。
- 潮井水源について、ブルーシートがかかったままになっている。説明板も記録に残るようなものになっていない。そのあたりの整備について、どのように検討しているか。
- ◆ 仮設住宅の集約も進む中で、みんなの家の活用策について検討している。災害公営住宅近くに活用するという案も出ている。関係課と協議している。記憶の継承の観点からも、検討していきたい。住民の方々の意見も伺いながら進めていきたい。
- ◆ ブルーシートが 2 枚かかっている。流しそうめん屋さんの前は公園の整備とともに直していく。奥については樹脂で固める実験を進めているところ。下から水が沸いてくるので、適切な薬剤を決めるためのモニタリングをしている。年に何回か一斉公開する、という方法しかない。
- ◆ 指定範囲を明確にしないと、文化庁の整備の補助金を受けることができない。活用方針を明確にしてから整備計画を策定することになる。今は何も情報を得られないので、簡易的な説明板を早急に整備したい。

- ネットワークについて、要整理。資料 8 と資料 11 で整合性の取れていないところがある。
- ◆ 検討のうえ、修正する。

- 中心拠点を役場に置く場合のデメリットもあると思う。どのように使うか、目的に合った規模になっているか。「こういった機能だからここに置く・受け入れられる」という整理が必要。たとえば修学旅行をここで受け入れるのか、受け入れないのであればどこで受け入れるのか。そういった検討が必要。
- 地震から 3 年が経過した。この委員会では方向性しか示していない。どこが最終的に担うのか。語り部 1 つとっても、ネットワーク化、マネジメントを誰がするのか。そのような人材の育成も必要。持続していくためには、全体をマネジメントするシステムの構築が必要。最後まで役場が面倒を見る、というものはなかなか厳しい。どうやって手を離すのか、自立していくのか、といった点についても検討が必要。

- 地震後に潮井公園は駐車場が整備された。しかし大型バス、マイクロバスが入る道路がない。道路の整備を進める手配をお願いしたい。
- ◆ 復旧工事の途中なので、大型自動車については使用しないでいただきたい、という周知をしている。しかしマイクロバスは農免道路から入れるようになっている。大型自動車が入れるよう、都市建設課と検討中。

8. 事務連絡（○：委員 ◆：事務局）

- ・ 町長公室より、記録誌作成について説明
- 震災記録誌の編集はこの委員会で行ってはどうか。住民の動きも取り上げるのがいいのでは。

- ◆ 行政としての動きを記録することが主目的。まちづくり協議会や自主防災組織の動きについても記録誌の中で触れるが、あくまでも「行政目線」で書き、編集は町で行う。
- なぜ平成 29・30 年度の記録なのか。行政としての対応、失敗談をどんどん発信していくべき。そういった教訓こそ未災地の人たちが聞きたい情報。
- ◆ 平成 28 年度については検証報告書を公表済なので、記録誌は平成 29・30 年度分を掲載。
- 忖度しないように記録誌を作成してほしい。

9. 閉会

以上